

I. 2021 年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、2010年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、2021年4月1日から2022年3月31日までの期間についての当法人の事業活動をとりまとめたものである。
- (2) 2021年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業(公1)並びに研究業績褒賞事業(公2)に区分して実施した。

助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (2) PI セットアップ研究助成(本年度休止) 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞(第19回高峰記念第一三共賞) 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 (高峰カンファレンス)(本年度休止)

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成を実施し、PI セットアップ研究助成は休止とした。

2. その他について

- (1) 指定寄附金収入
第一三共株式会社より2021年4月9日、指定寄附金として1億5千5百万円を受領した。
- (2) 主要事業活動報告
- ① 2021年4月19日の第23回選考委員会にて、2021年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成の候補者並びに第19回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
 - ② 2021年5月20日の第19回高峰記念第一三共賞審査委員会にて、同賞の最終候補者を決定した。
 - ③ 2021年6月1日の第42回理事会にて、2020年度の事業報告及び決算報告書、2021年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成者の決定、第19回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。
 - ④ 2021年6月17日の第15回評議員会にて、2020年度決算報告の件について審議され、承認された。
 - ⑤ 2021年6月18日、内閣府に2020年度事業報告等を提出した。

- ⑥ 2021年6月21日、内閣府に海外留学奨学研究助成の強化に伴う事業内容の見直しについて変更届出書を提出した。
- ⑦ 2021年10月22日の第24回選考委員会にて、2021年度研究助成候補者及び2022年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、2022年度海外留学奨学研究助成については、候補者の上位者5名と女性優先枠1名の計6名について常務理事が面接を実施し、最終候補者(6名)を選出した。
- ⑧ 2021年12月3日の第43回理事会にて、2021年度研究助成者決定、2022年度海外留学奨学研究助成者決定、2022年度事業推薦・応募要領、助成(褒賞)候補者推薦依頼先、高峰記念第一三共賞審査委員会委員の改選、選考委員の選任の各件について審議され、承認された。
なお、海外留学奨学研究助成研究助成者に関しては、6名の内3名が辞退したため、理事会で承認された手順に従い追加の面接・採択を行った。
- ⑨ 2022年2月22日の第44回理事会にて、2022年度事業計画、収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて審議され、承認された。
- ⑩ 2022年3月4日、内閣府に2022年度事業計画書等を提出した。

(3) 人事関係

- ① 2022年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は、理事16名、監事2名。評議員は10名。選考委員は20名。研究業績褒賞に係る審査委員(高峰記念第一三共賞審査委員)は、任期満了に伴う改選が行われ、8名(前期比1名増)。顧問は6名(前期比2名減)、職員は2名。
- ② 選考委員について、2021年7月24日に菅敏幸氏が逝去され、新たに選任された金井求氏が12月3日付で就任した。
- ③ 高峰記念第一三共賞審査委員について、2021年12月3日の第43回理事会にて、任期満了に伴う改選が行われ6名が重任し、新たに選任された谷口維紹氏、影山龍一郎氏が2022年2月1日付で審査委員に就任した。
- ④ 顧問について、2022年3月9日に豊島久眞男氏が、また2022年3月24日に高久史磨氏が逝去された。

(4) その他

2021年度の各種会議体は新型コロナウイルス感染防止のため、理事会については第42回(6/1)・第43回(12/3)・第44回(2/22)をWeb会議にて実施した。第15回評議員会(6/17)についてはWeb会議にて実施した。選考委員会については第23回(4/19)・第24回(10/22)ともにみなし決議にて実施し、第19回高峰記念第一三共賞審査委員会(5/20)についてはWeb会議にて実施した。
また、研究褒賞事業である第19回高峰記念第一三共賞贈呈式は、昨年度から延期された第18回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同で開催することとなっていたが、新型コロナウイルスの影響を考慮して中止した。

II. 2021 年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業(公1)	1. 研究助成 (1)研究助成 (定款第4条(1))	75,000 千円	2020 年度 @100 万円×25 件 2021 年度*1 @200 万円×25 件
	(2)PI セットアップ研究助成 (定款第4条(1))	－千円	@300 万円/件 (本年度休止)
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条(2))	3,500 千円	@50 万円×7 件
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条(3))	1,000 千円	@50 万円×2 件
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条(4))	25,600 千円	2020 年度 @50 万円×6 回×3 件 @50 万円×1 件*2 @210 万円×1 件*3 2021 年度 @300 万円×4 件*4 @200 万円×1 件*5
	その他助成事業費	10,803 千円	諸謝金、賃借料、ビル共益 管理費、印刷製本費等
	助成事業計	115,903 千円	
研究業績褒賞事業(公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条(5))	13,348 千円	第19回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマ に関連するシンポジウム開催 (定款第4条(5))	－千円	高峰カンファレンス (本年度休止)
	その他研究業績褒賞事業費	3,386 千円	諸謝金、賃借料、印刷製本費、 ビル共益管理費等
	研究業績褒賞事業計	16,734 千円	
	合計	132,637 千円	

*1 2021 年度から研究助成金の採択件数を 20 件程度とし交付方法を 2 年間分 200 万円、一括交付とした(2020 年度第 38 回理事会)。

*2 留学期間が 13 か月で終了したため、2 年度分の支給が 50 万円となった。

*3 新型コロナにより途中帰国した 1 名の中断していた助成金の再交付を行った。

*4 2021 年度から助成金交付方法を 1 年間分 300 万円、一括交付とした。

*5 留学先での適正賃金の限度内で他財団からの助成金との重複受給を可能にするために助成金交付金額を変更した。

2. 助成事業(公1)

2.1 研究助成(定款第4条(1))

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム:研究助成はふたつのプログラムよりなる。

① 研究助成

② PIセットアップ研究助成(本年度休止)

(3) 募集対象

① 研究助成

日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀かつ最先端の研究をする 50 歳未満(2021年4月1日現在)の研究者

② PIセットアップ研究助成

- (a) 研究責任者(PI)として、実施前々年度、実施前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは実施年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。
- (b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可
- (c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可
- (d) 45歳以下(実施年度4月1日現在)の研究者

(4) 募集規模

① 研究助成

- (a) 1件当たり200万円(助成期間は、2021年度以降2年間)
- (b) 採択件数:新規25件(うち4件を女性優先枠)

新規20件程度で募集したが、2020年度決算にて新型コロナの影響により支出が減少し、その未使用予算が約2,000万円発生したため、2021年度研究助成の採択枠数を25件、2022年度海外留学研究助成の採択枠数を6件に増枠して使用することが第42回理事会にて承認された(2021年6月1日)。

② PIセットアップ研究助成

- (a) 1件当たり300万円(助成期間は、実施年度以降3年間)
- (b) 採択件数:新規5件程度

(5) 募集方法

当法人ホームページにて応募要領を掲載し、理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者(高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞)宛にポスター等送付し募集する。

(6) 応募方法

- ① 理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者(高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞)を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。
- ② 応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。
- ③ 推薦者は、応募者の中から応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。

- ④ 応募者は推薦書を取得後、当法人ホームページの助成 Web 登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信する。送信された申請書類を当財団にて確認後、申請者に申請を受付けた旨の連絡を行い、受付番号を交付する。
- ⑤ 応募期間
 - (a) 研究助成:2021 年 6 月 1 日～7 月 31 日
 - (b) PI セットアップ研究助成:本年度休止(隔年実施)
- ⑥ 応募件数
 - (a) 研究助成:179 件
- (7) 選考方法
 - ① 研究助成
第 24 回選考委員会による選考結果をもとに、第 43 回理事会にて 25 名の助成者を決定した。
(附属明細書[資料-1]:2021 年度当該助成採択者参照)
 - ② PI セットアップ研究助成
選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成者を決定する。
- (8) 助成金の交付
 - ① 交付方法:原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。
 - ② 交付時期
 - (a) 研究助成:2022 年 1 月 20 日～2 月 28 日に一括交付(200 万円)。
 - (b) PI セットアップ研究助成:募集年 8 月頃に一括交付する(300 万円)。
- (9) 研究成果の公表
 - ① 助成者は、助成期間終了後、研究報告書及び収支決算報告書を当法人に提出する。
 - ② 助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

2.2 海外共同研究支援助成(定款第 4 条(2))

- (1) 概要:海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。
- (2) 募集対象
 - ① 海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした海外渡航、或いは海外の研究者を招聘する者
 - ② 助成対象期間:2021 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日に実施するもの
 - ③ 50 歳未満の研究者(2021 年 4 月 1 日現在)
- (3) 募集規模
 - ① 1 件当たり 50 万円
 - ② 採択件数:研究会・シンポジウム開催助成と併せて 10 件程度
- (4) 募集方法:「研究助成」と同一
- (5) 応募方法
 - ① 応募方法は「研究助成」と同一
 - ② 応募期間:2021 年 1 月 4 日～2 月 20 日
 - ③ 応募件数:9 件
- (6) 選考方法
 - 第 23 回選考委員会による選考結果をもとに、第 42 回理事会にて 7 名の助成者を決定した。
(附属明細書[資料-2]:2021 年度当該助成採択者参照)
- (7) 助成金の交付
 - ① 交付方法:原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

- ② 交付時期:2021年7月20日
- (8) 成果:実施終了後、実施報告書及び収支決算報告書を提出する。

2.3 研究会・シンポジウム開催助成(定款第4条(3))

- (1) 概要:萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- (2) 募集対象
 - ① 生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
 - ② 当該研究会・シンポジウムの規模は、国内・海外合わせて参加人員500名以内程度で、他の団体より大型の寄付を受けていないもの
 - ③ 助成対象期間:2021年7月1日から2023年6月30日に実施するもの
- (3) 募集規模
 - ① 1件当たり50万円
 - ② 採択件数:海外共同研究支援助成と併せて10件程度
- (4) 募集方法:「研究助成」と同一
- (5) 応募方法
 - ① 応募方法は「研究助成」と同一。但し、推薦書は不要。
 - ② 応募期間:2021年1月4日～2月20日
 - ③ 応募件数:3件
- (6) 選考方法
 - 第23回選考委員会による選考結果をもとに、第42回理事会にて2件の助成者を決定した。
 - (附属明細書[資料-3]:2021年度当該助成採択者参照)
- (7) 助成金の交付
 - ① 交付方法:助成対象研究会・シンポジウムの指定口座に交付する。
 - ② 交付時期:2021年7月20日
- (8) 成果:実施終了後、実施報告書及び収支決算報告書を提出する。

2.4 海外留学奨学研究助成(定款第4条(4))

- (1) 概要
 - 海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- (2) 募集対象
 - ① 原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下(2021年4月1日現在)の研究者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下とする。
 - ② 海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者
- (3) 募集規模
 - ① 1件当たり1,100万円(助成期間は、2022年度以降2年間)
本年度から助成金交付額は600万円/件から1,100万円/件へ増額となることが第38回理事会にて承認された(2020年8月21日)
 - ② 採択件数:6件(うち女性優先枠1件)
5件で募集したが、2020年度決算にて新型コロナの影響により支出が減少し、その未使用予算が約2,000万円発生したため、2021年度研究助成の採択枠数を25件、2022年度海外留学研究助成の採択枠数を6件に増枠して使用することが第42回理事会にて承認された(2021年6月1日)。
- (4) 募集方法:「研究助成」と同一

- (5) 応募方法
 - ① 応募方法は「研究助成」と同一
 - ② 応募期間:2021年6月1日～7月31日
 - ③ 応募件数:60件
- (6) 選考方法
 - ① 第24回選考委員会による選考結果をもとに、候補者集計表上位5名及び6位以下より女性の最上位1名(女性優先枠)の計6名を決定。その後、3名の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名と女性の最上位1名の計6名を候補者とした。
 - ② 常務理事が候補者の面接を実施し、最終候補者(6名)とした。
 - ③ 第43回理事会にて6名の助成者を決定した。
 - ④ その後、3名の辞退者があったため、理事会にて承認された手続きに則り、順次繰り上げて常務理事が面接を行い採択とした。
(附属明細書[資料-4]:2022年度当該助成採択者参照)
- (7) 助成金の交付
 - ① 交付方法:助成対象者の指定する国内銀行口座を通じて交付する。
 - ② 交付時期:2022年度から年額550万円を毎年4月に交付する予定(2年間)。
- (8) 研究成果の公表:「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業(公2)

3.1 研究業績褒賞(定款第4条(5))

- (1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。
- (2) 褒賞名:第19回高峰記念第一三共賞
- (3) 褒賞対象者

生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者
- (4) 推薦方法
 - ① 理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員及び褒賞受賞者(高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞)に推薦を依頼した(但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く)。
 - ② 推薦期間:2021年1月4日～2月20日
 - ③ 推薦件数:13件
- (5) 選考方法
 - ① 第一次選考

第23回選考委員会にて推薦候補者の選考を行い、5名の候補者が第二次候補者となった。
 - ② 第二次候補者に対し、応募の意思の確認及び応募申請の要請を行った。
- (6) 最終選考
 - ① 第19回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

- ② 第 42 回理事会において、褒賞受賞者を決定した。
- ③ 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社のホームページに掲載した。
- (7) 受賞者及び受賞研究テーマ
 - ① 受賞者:濱田 博司博士(理化学研究所 生命機能科学研究センターチームリーダー)
 - ② 受賞研究テーマ:「哺乳動物の胚発生の基本的な仕組みの研究」
- (8) 褒賞の方法及び贈呈
 - ① 副賞(1,000 万円)を贈呈した。
 - ② 贈呈式は昨年度第 18 回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響を考慮して中止した(第 44 回理事会)。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催(定款第 4 条(5)) (本年度休止)

- (1) 概要
高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学术交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。
- (2) 名称: 高峰カンファレンス
- (3) 開催方法: 本年度は休止とした。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

2020年度研究助成採択者

25名(100万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
石黒 啓一郎	熊本大学発生医学研究所	減数分裂と体細胞分裂との違いに決定的な役割を果たす因子の同定
井上 飛鳥	東北大学大学院薬学研究科	GPCRキナーゼ(GRK)の選択性原理の解明
井上 貴美子	理化学研究所バイオリソース研究センター	モノアレリックなゲノム編集システムを利用した機能不明なゲノム刷り込み遺伝子の解析
遠西 大輔	岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター	腫瘍内シグナルと腫瘍外免疫環境を同時に標的とする難治性悪性リンパ腫の新規治療戦略
小田 賢幸	山梨大学大学院総合研究部医学域	クライオ電子顕微鏡を用いたHIV経皮・経粘膜感染防御機構の解明
垣内 伸之	京都大学大学院医学研究科	網羅的ゲノム解析による原発性硬化性胆管炎の病態と発がん機序の解明
金山 剛士	東京医科歯科大学難治疾患研究所	感染初期に誘導される単球細胞死の病態生理学的な意義の解明
岸 雄介	東京大学大学院薬学系研究科	生体内ニューロンの一生にわたるクロマチン構造変化の解析
桑子 賢一郎	島根大学医学部	ヒト脳オルガノイドを用いた革新的病態モデルの開発と解析
齋藤 潤	京都大学iPS細胞研究所	ヒト神経筋接合部in vitroモデルをもちいた神経筋接合部疾患の病態解析と治療法開発
指田 吾郎	熊本大学 国際先端医学研究機構	数的染色体異常による骨髄異形成症候群発症の分子基盤の解析
佐藤 政充	早稲田大学理工学術院 先進理工学部生命医科学科	シングルセル遺伝子発現解析の組織への応用に基づく多発性嚢胞腎の発症メカニズムの解明
鈴木 洋	名古屋大学大学院医学系研究科	マイクロRNAによるがん細胞のアイデンティティーの制御とがん免疫
高橋 良太	東京大学大学院医学系研究科	慢性膵炎モデルマウスを用いた炎症性膵発癌の機序解明
武田 憲彦	自治医科大学分子病態治療研究センター	治療応用を目指して心不全の回復プロセスを明らかにする
豊原 敬文	東北大学大学院医工学研究科	細胞内脂質に着目した新たな糖尿病性腎症治療の開発
長島 駿	東京薬科大学生命科学部	オルガネラコンタクトと皮膚老化の関連解明
西山 敦哉	東京大学医科学研究所	DNMT1阻害剤5-aza-dCTPが形成するDNAタンパク質架橋修復の分子機構
林 悠	京都大学大学院医学研究科	神経変性原因物質に着目したレム睡眠の作用とそのメカニズムの解明
原 英樹	慶應義塾大学医学部	インフラマソーム炎症性疾患における病態形成機序の解明と阻害法の開発
細川 裕之	東海大学医学部	T細胞初期発生におけるガン遺伝子PU.1の発現抑制メカニズムの解明
松田 研一	北海道大学大学院薬学研究院	新規ペプチド環化酵素ファミリーPBP-type TE における特異性発現メカニズムの解明
宮本 達雄	広島大学原爆放射線医科学研究所	ミトコンドリア機能不全による繊毛病発症機構の解明
山元 淳平	大阪大学大学院基礎工学研究科	生体組織での光遺伝子治療を目指した高効率な光受容人工DNA修復酵素の開発
山本 玲	京都大学 高等研究院	血液細胞系譜ランドスケープを用いた『血液 QR コード化』による疾患の診断・予測技術の開発

2021年度研究助成採択者

25名(200万円交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
稲木 美紀子	大阪大学大学院理学研究科	光遺伝学を用いた上皮細胞の異所的移動能誘導とその制御法の確立
井上 剛	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	腎交感神経による腎機能維持機構の解明
今村 拓也	広島大学大学院統合生命科学研究科	ノンコーディングRNAを活用したマウス神経解析系医療応用への基盤の確立
植田 航希	福島県立医科大学医学部	細胞間相互作用を起点とした、前白血病から急性骨髄性白血病への進行機序の解明と進行予防法の開発
上原 亮太	北海道大学大学院先端生命科学研究院	光制御で迫る生体局所の細胞分裂異常による病態形成の原理
越智 陽太郎	京都大学大学院医学研究科	骨髄性腫瘍のドライバー遺伝子変異によって生じるエピゲノムと転写異常の解明
川辺 浩志	群馬大学大学院医学系研究科	シナプス可塑性・空間記憶能力のエピキチン化依存的な新しい制御機構の解明
北嶋 俊輔	がん研究会がん研究所	二本鎖RNA認識経路を標的とした新規がん免疫療法の開発
木内 謙一郎	慶應義塾大学医学部	腸管塩分調節の概日リズムと血圧恒常性の探索
熊谷 尚悟	国立がん研究センター	腎盂がんの進化の経過における免疫逃避機構の全貌解明
齋藤 史路	金沢医科大学医学部	新型コロナウイルス感染時における緊急造血のメカニズムの解明と新規治療方法の開発
佐藤 亮太	東京大学医科学研究所	自然免疫応答におけるRNaseT2の機能解明
瀬川 勝盛	東京医科歯科大学難治疾患研究所	膜リン脂質の感知と恒常性維持機構の解明
中沢 由華	名古屋大学環境医学研究所	DNA損傷による転写障害を除去するDNA修復機構の分子メカニズム解明とその破綻による生体影響の検討
中嶋 藍	東京大学大学院薬学系研究科	神経活動パターンによる機能的脳回路形成機構の解明
樋口 ゆり子	京都大学大学院薬学研究科	細胞膜への低分子抗体修飾による治療細胞の標的指向化
前澤 創	東京理科大学理工学部	エピゲノム編集による減数分裂プログラムの制御
宮崎 正輝	京都大学ウイルス・再生医科学研究所	多因子複合型COVID-19高感受性感染モデルマウスの作製と感染重症化の免疫機序の解明
宮林 弘至	東京大学医学部附属病院	膀胱癌分子サブタイプbasal-like型におけるTEAD2の役割の解明と新規治療法の開発
村松 里衣子	国立精神・神経医療研究センター神経研究所	脳の外部環境因子による自閉症の病態形成機構の解明
山田 大翔	北海道大学遺伝子病制御研究所	宿主自然免疫応答破綻の時空間的要因が及ぼす、SARS-CoV-2複製への影響
横井 暁	名古屋大学医学部附属病院	がんゲノム搭載細胞外小胞エクソソームの時空間的多様性解明
吉見 昭秀	国立がん研究センター	臓器特異的スプライシング変異の理解に基づくがん治療標的の探索
米原 圭祐	国立遺伝学研究所	細胞表面プロテオミクスを用いた非対称神経接続形成の分子機構の理解
渡辺 登喜子	大阪大学微生物病研究所	経鼻ワクチンのためのアジュバントの開発研究

[資料-2]

2021年度海外共同研究支援助成採択者

7名(50万円交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	共同研究者	共同研究テーマ
定岡 知彦	神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター	Werner J. D. Ouwendijk Erasmus Medical Center	水痘帯状疱疹ウイルス潜伏感染獲得機構から明らかにする神経細胞内在的自然免疫機構
佐藤 麻紀	愛知医科大学医学部	Dominika Kanikowska Poznan University of Medical Sciences	医学部学生の睡眠習慣、生活リズム、時計遺伝子発現の国際比較
篠崎 陽一	山梨大学大学院総合研究部医学域基礎医学系	Alex Leung Institute of Ophthalmology, University College London	1細胞RNAシーケンスによる正常眼圧緑内障発症機構解明及び治療標的探索
中村 仁美	大阪大学大学院医学系研究科	John D Aplin The University of Manchester	不妊症治療の創薬分子標的の発掘をめざした糖鎖修飾シグナルトランスダクションの検討
Namasivayam Ganesh Pandian	京都大学高等研究院物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)	Martin Stoddart AO research institute	変形性膝関節症を模擬したバイオリアクターを用いた関節軟骨成分再構築のための合成転写因子の生物学的評価
藤原 稔史	九州大学病院整形外科	Haibo Zhao VA Long Beach Healthcare System and University of California Irvine	金属結合蛋白メタロチオネインの破骨細胞分化と骨吸収機構の制御機構と骨粗鬆症治療への応用
若菜 裕一	東京薬科大学生命科学部	Felix Campelo Institut de Ciencies Fotoniques (ICFO)	オルガネラコンタクトを介した構成性分泌制御メカニズムの解明

[資料-3]

2021年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

2名(50万円交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究会・シンポジウム
金井 求	東京大学大学院薬学系研究科	第13回アジア医薬化学連合 国際メディシナルケミストリーシンポジウム オンライン開催(運営本部は東京大学本郷キャンパス内) 2021年11月29日から2021年12月2日まで
Moore Adrian	理化学研究所脳神経科学研究センター	第三回アジア太平洋ショウジョウバエ神経生物学会議 理化学研究所脳神経科学研究センター 2022年3月1日から2022年3月4日まで(2023年に変更)

2020年度海外留学奨学研究助成採択者

5名(300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
伊藤 謙治	東京大学医科学研究所 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	有糸分裂終了後の娘細胞に細胞の運命が維持・継承されるメカニズムの解明
坂本 悠記	日本医科大学 The George Institute Australia	心房細動を有する心原性脳塞栓症患者の長期転帰改善を目的とした薬物療法の確立
富永 顕太郎	新潟大学大学院医歯学総合研究科 Division of Developmental Biology at Cincinnati Children's Hospital Medical Center USA	低分子化合物による腸前駆細胞へのリプログラミングと炎症性腸疾患における基礎・再生医療への応用
西田 純	東京大学大学院医学系研究科 Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School USA	単一細胞解析技術の統合による乳がん脳転移の時空間的不均一性の解明
藤田 幸	大阪大学大学院医学系研究科 Perelman School of Medicine, University of Pennsylvania USA	神経回路の形成と損傷からの修復メカニズムの解明

2021年度海外留学奨学研究助成採択者

5名(300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
佐藤 浩央	群馬大学重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター Weill Cornell Medicine USA	抗腫瘍免疫反応を促進するがん細胞内分子経路の解明と、新規がん治療戦略への応用
祢津 昌広	山梨県立中央病院 ゲノム解析センター University of Alberta Canada	ホルモン産生性下垂体腫瘍モデルマウスを用いた、腫瘍増殖とホルモン産生の協調的制御機構の解明
山本 悠	大阪大学蛋白質研究所 Aarhus University Denmark	網膜から上丘への軸索投射における収束シナプス発達機構の解明
城森 啓宏	北海道大学大学院生命科学院 University of Minnesota USA	非クラスター型ボロシン様RIPPsの生合成における修飾酵素の探索と機能解析
鈴木 将貴	慶應義塾大学医学部 Harvard Medical School USA	腸内細菌D-アミノ酸による免疫活性化機構の解明

2022年度海外留学奨学研究助成採択者

6名(550万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
加藤 裕之	東京大学医学部附属病院 Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School USA	遺伝子変異がもたらす膵癌の代謝・エピゲノムリモデリングの治療標的化
佐藤 和貴	筑波大学生存ダイナミクス研究センター Yale school of Medicine USA	相分離によるT細胞受容体のシグナル伝達機構の解明と腫瘍環境における制御性T細胞の人為的制御への応用
杉崎 陽一郎	神戸大学大学院医学研究科 Columbia University Medical Center USA	人工知能と血管内イメージングによる不安定プラークの特徴の解明と急性心筋梗塞発症予測モデルの開発
竹田 玲奈	東京大学医科学研究所 Dana-Farber Cancer Institute USA	エピゲノムを標的とした前白血病に対する先制的治療の開発
中澤 世識	群馬大学大学院医学系研究科 Massachusetts General Hospital Cancer Center, Harvard Medical School USA	肺癌における分子標的薬に対する治療抵抗性のメカニズム解明
松原 崇紀	藤田医科大学医学部 The University of North Carolina USA	情動変化に伴う疼痛制御メカニズムの解明